

健康スポーツナースの今後の課題と発展性

Future Challenges and Developments for Health Sports Nurses

大島久奈¹⁾, 串間敦郎²⁾

抄 録

目的: 健康スポーツナースの課題と活動の発展性を明らかにすることであった。

方法: 健康スポーツナース3名と、スポーツ現場で救護活動を行っている看護師、医師、理学療法士の合計6名に、半構造化インタビューを実施し、インタビュー結果をカテゴリー化して分析した。

結果: 健康スポーツナースのインタビューからは、現在のそれぞれの活動内容が明らかとなり、7つのサブカテゴリーと3つのカテゴリー<健康スポーツナースの課題><健康スポーツナースの活動が広がるために必要なこと><健康スポーツナースへの期待>が抽出された。

結論: 看護師、医師、理学療法士へのインタビュー結果からは、それぞれの立場での救護活動における役割、健康スポーツナースに求める技能と役割について明確となった。

健康スポーツナースのインタビュー結果からは、<それぞれの活動の場で健康スポーツナースとして積極的に活動することの必要性>が示唆され、<健康スポーツナースを世の中に広めていく具体的な広報活動が明らかになっていないこと>が課題としてあげられた。研究対象者6名のインタビュー結果から、<運動器に関するより詳しい研修や、実践的な研修により専門的に健康スポーツナースの活動に関わりたいと考える人の活動が発展していくこと><健康スポーツナースが健康な体づくりに必要な栄養面の知識を持ち、スポーツ選手に関わることでスポーツ現場における活動が広がること><健康スポーツナースが、健常者と同様に障がいを持つ人が参加するスポーツ大会の救護活動においても他職種と異なった役割を担えること><健康スポーツナースの活動によって、人々がより安心・安全にスポーツを行うことができる環境づくりを支援できること><スポーツ選手に対するスポーツ障害の予防に関しての指導を行うなど、予防的介入の場が広がっていくこと>が示唆された。

【キーワード】 健康スポーツナース・医療連携・インタビュー・質的研究

I 緒 言

「健康スポーツナース」は、宮崎大学が展開したスポーツ選手・スポーツ愛好家・地域住民を医学の面から支える「スポーツメディカルサポートシステムの構築」の一環として提唱され、宮崎大医学部看護学科、同附属病院看護部、宮崎県看護協会が中心となり2010年に設立された「日本健康運動看護学会」がその認定・普及に当たっている¹⁾。現在の健康スポーツナースの主な活動としては、学校での学童期運動器検診の実施、地域での運動器検診における運動機能評

価、生活習慣などの相談やスポーツ検診における種目や競技レベルに応じたメディカルサポートの実施、運動機能維持・改善に向けた指導、学校やスポーツクラブでの健康相談、スポーツイベントでの救護などがあげられる²⁾。近年では身障者スポーツの場でも活動を広げ、人々が安心・安全に運動、スポーツを楽しめる地域づくりを支援している。

これらのように、健康スポーツナースの活動は多岐に渡っているが、健康スポーツナースは世の中に広く知れ渡っていないため、現在行っている活動を継続しつつ、

1) 湘南鎌倉総合病院

2) 宮崎県立看護大学

これから更に活動の場を広げていく必要があると言える。そこで筆者は、健康スポーツナースがスポーツの現場で看護職者の技能を活かし、健康スポーツナースとしてスポーツ選手の健康的な体づくりや、外傷予防などに深く関わり、さらに活動の場を広げていくことが可能ではないかと考え、健康スポーツナースの現在の活動と今後の発展について看護職者、その他の医療従事者の視点について調査した。しかし、健康スポーツナースの現在の活動、必要性に関して述べられた研究はあるが、スポーツ現場に着目し、かつ看護職者以外の医療従事者からの視点を踏まえて述べられた研究はない。

そこで、本研究では、健康スポーツナースの現状を調査し、スポーツ現場に関わる医療連携者が健康スポーツナースに求める役割を明らかにすることで、健康スポーツナースの課題と活動の発展性を明らかにすることを目的とした。

なお、本研究では、スポーツ現場は「スポーツ選手が出場するスポーツ大会」と操作的に定義した。

II 研究方法

1. 研究デザイン

半構造的インタビューによる質的帰納的研究デザイン

2. 研究対象者

対象者は6名で、そのうち健康スポーツナースの資格を有している看護職者3名は、病院勤務をしておりスポーツトレーナーの資格を有している看護師1名(A)、産業保健師1名(B)、デイサービス勤務の看護師(C)1名である。健康スポーツナース以外の3名はスポーツ現場で救護活動を行っている医療従事者で、健康スポーツナースの資格を有していないD県内の病院に勤務する看護師1名、D県内の病院に勤務しスポーツドクターの資格を持つ医師1名、D県内のデイサービスに勤務するアスレチックトレーナーの資格を持つ理学療法士1名である。なお、健康スポーツナース以外の研究対象者3名を医療連携者とする。

3. インタビュー調査期間

2018年7月～2018年10月

4. データ収集方法

研究対象者は多職種であり、活動の場が複数あったため、インタビューに適切な場をそれぞれに設定した。研究対象者には研究の目的を口頭で説明し、対象者の参加の意思を確認した。半構造化インタビューは、対象者の都合に合わせた時間帯で30分程度のインタビューとした。健康スポーツナースの資格を有する看護職者3名に行ったインタビュー内容は、①健康スポーツナースとしての具体的な活動内容、②健康スポーツナースとしての活動の際に普段務めている職場からのサポートの有無とその内容、③健康スポーツナースの活動が広がっていくための課題、④研究対象者が考える健康スポーツナースへの期待とした。なお、③の内容について、1名は主な活動をD県外で行っているため、D県内とD県外の活動の差とその背景についても語ってもらった。医療連携者3名に行ったインタビュー内容は、①救護室での具体的な活動内容、②対応している事例の症状の背景、③緊急時の対応に関する工夫と留意点、④健康スポーツナースを説明した上でスポーツ現場において健康スポーツナースに期待したいこととした。語られた内容は、対象者の許可を得てレコーダーに録音した。

5. データ分析方法

最初に、録音したインタビュー内容から逐語録を作成した。逐語録について内容ごとに意味を読みとり短文に構成しコードとした。類似性のあるコードをまとめて、サブカテゴリーとし、さらにまとめていく作業を行い、カテゴリーとして分類した。本稿では、コードは「」、サブカテゴリーを< >、カテゴリーを【】で表した。なお、健康スポーツナースの特性が抽出されるように、健康スポーツナースの資格を有する3名と、医療連携者3名はそれぞれに分析した。

6. 倫理的配慮

本研究は、研究対象者に研究の主旨と方法、途中で辞退することも可能であること、インタビューにおいて知り得た情報は研究目的以外で使用しないこと、個人が特定出来るような情報は排除して分析データとすること、本研究終了後のデータの破棄について口頭により十分説明し、同意を得てインタビューを実施した。また、研究対象者の負担とならないよう希望する日時・場所

で、約30分程度の予定で実施した。録音した音声データは逐語録作成後破棄し、資料は個人が特定されないように匿名化し、研究責任者が厳重に管理した。

III 研究結果

1. 健康スポーツナースのインタビュー結果

1) 活動内容について

インタビュー内容①からA, B, Cそれぞれの活動について整理し、主な活動及び実践内容として示した(表1)。

表1 健康スポーツナースの主な活動と実践内容

対象者	主な活動	実践内容
A	学生スポーツチームでの活動 スポーツ大会の救護活動	・ 障害予防の指導 ・ ウェイトトレーニングなどのトレーニング指導 ・ 傷病者の対処
B	産業保健師としての個別的健康指導	・ メンタルヘルスの相談時に、肩こり、腰痛を訴える人が多いため、簡単にできる運動を紹介する
	地域住民に対する健康教育	・ 健康教育の中で体操を必ず取り入れる
C	デイサービスでの活動	・ 下肢筋力低下の防止と改善のための体操を施設内で利用者で行う (ロコモ予防体操など)

Aの活動は、学生スポーツチームにおける活動、スポーツ大会の救護活動の2つに分けられた。内容としては、「基本的には、ケガをしないための予防、トレーニングの指導をすること。特に、未成年の学生に対しては重点的にウェイトトレーニングの指導をする」「負傷した選手に対してテーピングを巻いたり、ケガをした選手への対応をしたりする」であった。Bの活動は、産業保健師としての個人的健康指導、地域住民に対する健康教育の2つに分けられた。内容としては、「メンタルヘルスの相談の際、肩こりや腰痛を訴える人が多いため、簡単にできる運動を紹介する」「健康教育の中で、必ず簡単にできる体操を紹介する」であった。Cの活動は、デイサービスでの活動であり、「ロコモ予防の体操などの軽い運動を施設利用者と共にやる」が含まれた。

2) 健康スポーツナースの今後の課題と発展性について

インタビュー内容②～④について分析した結果、7つのサブカテゴリー、3つのカテゴリーが抽出された(表2)。

「自ら活動の場を見つけて活動していく」などのコー

表2 健康スポーツナースのインタビュー結果

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
健康スポーツナースの課題	知名度が低い	・ 取得後は個人での活動が多い ・ 活動の仕方が手探り
	発展させていく必要性	・ 県外からの受講者は、主にスポーツのことに学ぼうと思って来る。研修内容について想像と実際の乖離が有る ・ スポーツ現場での活動は、理学療法士やトレーナーとの役割の線引きが難しい
健康スポーツナースの活動が広がるために必要なこと	健康志向、運動志向のどちらにも発展していく	・ 資格を持つ人が増え、各地(地域)での活動が広がる ・ 多くの人に健康スポーツナースを知ってもらおう
	レベルアップした研修	・ 運動器に関する知識を増やす ・ スポーツナースを専門的に活動したい人に対する研修の必要性
健康スポーツナースへの期待	看護師としての知識を活かす	・ 障がいを持っている方が参加するスポーツ大会での救護活動 ・ 栄養面などの健康の知識をスポーツに活かせる
	健康寿命を延ばす活動	・ 住民の年齢が若い時から正しい運動を推進できる ・ 各地のスポーツナースが健康指導などの場で運動器の話や体操を取り入れていく
	役割の確立	・ イベントや大会でスポーツナースとしての活動が設けられる ・ スポーツ大会などの場で、スポーツナースがいれば安心だと思われる存在になる

ドから、＜知名度が低い＞を抽出した。「県外から学びに来る人は、主にスポーツのことに学ぼうと思って来る。想像と実際の研修内容との差がある」「スポーツ現場での活動は、理学療法士やトレーナーとの役割の線引きが難しい」などのコードからは、＜発展させていく必要がある＞というサブカテゴリーを抽出した。これら2つのサブカテゴリーから、【健康スポーツナースの課題】とした。

「資格を持つ人が増えて、各地(地域など)での活動が広がる」「多くの人に健康スポーツナースの存在を知ってもらおう」からは、＜健康志向、運動志向のどちらにも発展していく＞を抽出した。「スポーツ現場で活動したいと考える人のための運動器の専門性に特化した研修が設けられること」からは、＜レベルアップした研修＞のサブカテゴリーが抽出された。これら2サブカテゴリーから、【健康スポーツナースの活動が広がるために必要なこと】を見出した。

「より全身の知識を持っていないといけない障がい者スポーツでの救護活動」「健康な体につながる栄養面の知識を活かせる」からは、＜看護師としての知識を活かす＞が抽出された。「住民の年齢が若い

時から正しい運動を推進することができ、高齢になっても元気に歩くことができる人を増やす」「各地に健康スポーツナースがいて、住民に対して健康教育を行い、その中で運動器の話や体操を取り入れていく」からは、＜健康寿命を延ばす活動＞が抽出された。「スポーツ大会で健康スポーツナースの活動が設けられる」などのコードから、＜役割の確立＞のサブカテゴリーが抽出された。これら3つサブカテゴリーから【健康スポーツナースへの期待】とした。

2. 医療連携者のインタビュー結果

1) 看護師のインタビュー結果 (表3)

表3 看護師のインタビュー結果

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
救護活動における看護師の役割	外傷に対する処置, 対応	・ドクターと理学療法士の補助的関わりをする ・指示された処置を行う
	内科的疾患に対する処置, 対応	・バイタル測定, 症状観察を行う ・コミュニケーションを取りながらの状況把握 ・対象者とのコミュニケーションから迅速なアセスメントを行う
	外傷と内科的疾患の処置, 対応に共通する点	・その場のスタッフと連携して, 一番適した対応を判断する ・傷病者への対応に優先順位をつける ・本人, 家族への十分な状況説明を行う
救護活動において看護師が健康スポーツナースに求める技能と役割	自信をもって判断できるアセスメント能力	・病棟と違い看護師の数は一人が多く, 相談できる人は少ないためアセスメント能力が必要 ・看護師ならではのアセスメント能力が迅速かつ適切な判断に繋がる
	運動器だけでなく全身を健康にするための知識を持つ	・健康な体づくりのための栄養面の知識をつける ・対象者に健康な体に必要な栄養素を伝えることができる

インタビュー内容①～③の分析において、「外傷の対象者に対しては、医師と理学療法士が診て処置, 対応を行い、看護師はその際の補助的関わりをする」「緊急性を要するときは救急要請をする」「外傷の対応の際は、看護師は主に指示されたことをする」などのコードから、＜外傷に対する処置, 対応＞が抽出された。「内科的疾患では、バイタルの測定, 症状の観察を行う」「対象者とのコミュニケーションから、症状をアセスメントする」からは、＜内科的疾患に対する処置, 対応＞が抽出された。「その場のスタッフと連携して、対象者に一番適した対応を判断する」「傷病者が複数人の場合は優先順位を決めて対応する」「対象が

学生の場合は、本人だけでなく保護者にも十分な状態説明を行う」からは、＜外傷と内科的疾患の処置, 対応に共通する点＞のサブカテゴリーが抽出された。これらの3つのカテゴリーから【救護活動における看護師の役割】が分類された。

インタビュー内容④において、以下の内容が分析された。「病棟と違い、看護師の人数は一人が多いことから相談できる看護師はいない。そのため、一人でも判断できるアセスメント能力が必要」「看護師のアセスメント能力が、迅速かつ適切な判断に繋がる」からは、＜自信をもって判断できるアセスメント能力＞が抽出された。「間違った栄養の知識から体調を崩す人も多いため、正しい栄養の知識を提供できる」からは、＜運動器だけでなく全身を健康にするための知識を持つ＞が抽出された。この2つのサブカテゴリーから【救護活動において看護師が健康スポーツナースに求める技能と役割】とした。

2) 医師のインタビュー結果 (表4)

表4 医師のインタビュー結果

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
救護活動における医師の役割	外傷に対する処置, 対応	・競技を続けられるかの判断を行う ・アイシング, 圧迫などの応急処置を行う (医療行為は行わない)
	内科的疾患に対する処置, 対応	・水分の経口摂取可否の判断をする ・緊急搬送を行う判断をする
救護活動において医師が健康スポーツナースの現場での経験と役割	看護師としての能力	・バイタルの把握を行う ・ドクターのサポートを行う
	意見交換ができる	・看護師と健康スポーツナース両方の現場での経験を積む ・看護師の視点からの意見を聞きたい

インタビュー内容①～③の分析において、「競技を続けられるかの判断をする」「アイシング, 圧迫などの応急処置をする (医療行為は行わない)」からは、＜外傷に対する処置, 対応＞が抽出された。「水分を経口摂取できるかの判断をする」「救急搬送を行う判断をする」からは、＜内科的疾患に対する処置, 対応＞が抽出された。これら2つのサブカテゴリーから、【救護活動における医師の役割】とした。

インタビュー内容④において、以下の内容が分析された。「バイタルの把握を行う」「ドクターのサポートを行う」からは、＜看護師としての能力＞が抽出された。「看護師と健康スポーツナース両方の現場での経験を積む」「看護師の視点からの意見を聞きたい」からは、＜意見交換ができる＞が抽出された。この2つの

サブカテゴリーから【救護活動において医師が健康スポーツナースに求める技能と役割】が見出された。

3) 理学療法士のインタビュー結果 (表 5)

表5 理学療法士のインタビュー結果

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
救護活動における理学療法士の役割	外傷に対する処置, 対応	・重症度の判断をする(職種問わず) ・テーピングやアイシングなどの応急処置をする
	内科的疾患に対する処置, 対応	・出場の判断はできるだけ行わず, 二次的障害の説明を十分に行う ・重症度の判断を行う(職種問わず) ・症状の悪化予防を行う(アイシング, 水分摂取を促す)
救護活動において理学療法士が健康スポーツナースに求める技能と役割	予防的介入	・外傷や内科的疾患が起こる前の対策を考え啓発する ・学校などに出向き広い視野で啓発する

インタビュー内容①～③の分析において、「重症度の判断をする」「テーピングやアイシングなどの応急処置をする」からは、＜外傷に対する処置, 対応＞が抽出された。「出場の判断はできるだけ行わず, 二次的障害の説明を十分に行う」「職種を問わずに, 重症度の判断を行う」「症状の悪化予防を行う(アイシング, 水分摂取を促す)」からは、＜内科的疾患に対する処置, 対応＞が抽出された。これら2つのサブカテゴリーから【救護活動における理学療法士の役割】とした。

インタビュー内容④において、以下の内容が分析された。「外傷や内科的疾患が起こる前の対策を考え啓発する」「学校などに出向き広い視野で啓発する」からは、＜予防的介入＞のサブカテゴリーが抽出され、【理学療法士が健康スポーツナースに求める技能と役割】が示された。

IV 考察

1. 健康スポーツナースの活動と課題

本研究の健康スポーツナースのインタビュー結果にある現在のそれぞれの活動(表1)【健康スポーツナースの課題】のカテゴリーより、健康スポーツナースの現在の活動は、それぞれの活動の場で、健康スポーツナースとしての知識と技能を活かし、その場の対象に合った支援が行われていることが明らかになった。そして、活動の仕方が手探りであることや、知名度が低く活動の場が確立されていないことも明らかになった。一方、宮崎大学医学部附属病院(以降附属病院とする)

に所属する健康スポーツナースは、スポーツ大会の救護活動や、運動器検診での活動を行うなど、健康スポーツナースとしての活動の場が確立していることが知られている³⁾。このことから、附属病院に所属している健康スポーツナースと所属していない健康スポーツナースとでは、活動するにあたって、環境の違いがあると考えられる。また、健康スポーツナースのインタビュー結果にある【健康スポーツナースの活動が広がるために必要なこと】のカテゴリーより、健康スポーツナースが世の中に周知されるためには、資格を持つ人が増え各地での活動が広がり、健康志向、運動志向のどちらにも発展していく必要があるということが明らかになった。また、健康スポーツナース創設に関わり、現在第一人者として活動している健康スポーツナースは、今後の活動の発展について「それぞれの活動の場で、自分が出来ること、行っていることをアピールしていくことが大切だ」と語っている。このことから、健康スポーツナースは、現在のそれぞれの活動の場で“健康スポーツナース”として自分が出来ることを積極的に行い、健康スポーツナースの働きをそれぞれの場で広めていくことが重要であり、そのような活動をしていくことで健康スポーツナースを世の中に周知させていけるのではないかと考える。しかし、健康スポーツナースを更に世の中に広めていく具体的な広報活動については、明らかになっていないことから、具体的でより積極的な広報活動を検討し、実施していくことが、今後の健康スポーツナースの課題の一つであると言える。

さらに、同じカテゴリーの中の＜レベルアップした研修＞というサブカテゴリーから、健康スポーツナースの研修内容がレベルアップすることで、スポーツ選手と連携しサポートを行うなどの活動を、健康スポーツナースとして行いたいと考える人の活動が、より活発になっていく可能性があると考えられる。現在、日本運動看護学会のホームページに公表されている健康スポーツナースの研修内容としては「健康運動看護概論」「健康づくりの運動」「生体機能と運動」「運動傷害と予防」「栄養と運動」「健康管理と危機管理」等⁴⁾がある。内容としては、運動器に関する内容は含まれているが、健康スポーツナースのインタビュー結果の【健康スポーツナースの課題】から、スポーツに関しての知識を得たいと思っている看護師にとっては、運動器に関する研修内容が予想していたよりも充実していないことが考

えられる。このことから、運動器に関するより詳しい研修や実践的な研修などの、健康スポーツナースをより専門的に活動していきたいと考える人に合わせた研修が必要であると考ええる。

2. 健康スポーツナースと医療連携者の視点の共通点から見える発展性

健康スポーツナースのインタビュー結果にある【健康スポーツナースへの期待】のサブカテゴリー<看護師としての知識を活かせる>の内容と、看護師のインタビュー結果にある【救護活動において看護師が健康スポーツナースに求める技能と役割】のサブカテゴリー<運動器だけでなく全身を健康にするための知識を持つ>の内容の共通点として、「スポーツをするにあたって、健康的な体づくりのための栄養面の知識を増やす」という内容があげられる。先崎ら⁵⁾は、「スポーツ現場の中で看護職がトップアスリートのサポートをすることは非常に少ないと述べている」が、看護師であるからこそできるサポートがあると考え、看護師が健康相談や保健指導、アンチドーピング教育等を他のメディカルスタッフと連携して行っていることを紹介している。そのような場で、健康スポーツナースが栄養面の知識を活かしスポーツ選手に関わることで、健康スポーツナースとしての活動がスポーツ現場へとさらに広がっていくのではないかと考える。

また、健康スポーツナースのインタビュー結果にある【健康スポーツナースへの期待】のサブカテゴリー<看護師の知識を活かせる>の内容と、看護師のインタビュー結果にある【救護活動において看護師に必要な技能、求める役割】のサブカテゴリー<自信をもって判断できるアセスメント能力>の内容、さらに、医師のインタビュー結果にある【救護活動において医師が健康スポーツナースに求める技能と役割】のサブカテゴリー<看護師としての能力><意見交換ができる>の内容の共通点として、看護師が持つアセスメント能力の必要性があげられる。また、理学療法士のインタビュー結果にある【救護活動における理学療法士の役割】のサブカテゴリー<外傷に対する処置、対応><内科的疾患に対する処置、対応>の中には、職種を問わずに重症度の判断をすることが述べられており、他職種と連携する中で、看護師のアセスメント能力は重要な役割を担っていると考えられる。看護師のインタビュー

結果にある【救護活動における看護師の役割】の内容と、【救護活動において看護師が健康スポーツナースに求める技能と役割】のサブカテゴリー<自信をもって判断できるアセスメント能力>の内容から、救護活動において他職種と連携して活動を行うが、看護師の人数は一人のことが多いため、迅速かつ正確なアセスメントによる判断を求められることが多いことが明らかになった。健康スポーツナースは、スポーツ現場で求められる急変時の対応や傷病者に対する応急処置、メディカルスタッフとの連携に力を発揮していること、一次救命処置に伴うスキルが必要であるといわれる。これらのことから、看護師のアセスメント能力は、スポーツ現場でも需要が高いことが考えられる。また、健康スポーツナースのインタビュー結果にある【健康スポーツナースへの期待】のサブカテゴリー<看護師としての知識を活かせる>の内容から、健康スポーツナースが、障がいを持つ人が参加するスポーツ大会での救護活動においても健康スポーツナースの技能を活かすことができるといった意見が出てきた。障がいを持つ人が参加するスポーツ大会での救護活動は、より全身の知識が必要になるため、看護師の技能を活かせる健康スポーツナースとして、他職種と異なる役割を担えるのではないかと考えられる。このように、健常者が参加するスポーツ大会に関する活動だけでなく、障がいを持つ人のスポーツ大会での活動もしていくことで、健康スポーツナースが、人々が安心、安全にスポーツを楽しめる環境づくりを支援していけるのではないかと考える。

健康スポーツナースのインタビュー結果にある【健康スポーツナースへの期待】のサブカテゴリー<健康寿命を延ばす活動>の内容と、理学療法士のインタビュー結果にある【理学療法士が健康スポーツナースに求める技能と役割】のサブカテゴリー<予防的介入>の内容の共通点として、障害が起こらないように予防的に働きかけていくことの重要性があげられており、健康スポーツナースの活動として運動器疾患や障害の予防に働きかける活動の重要性が示されている⁶⁾。理学療法士のインタビュー結果にある【理学療法士が健康スポーツナースに求める技能と役割】の内容からは、スポーツ実施者に対して、傷害をどのように予防すれば良いのかを、広い視野で啓発する必要がある、という意見が出されている。これらのことから、健康スポーツナースの予防的に働きかける活動は、他職種からも求

められていると言える。今後も現在行っている運動器検診での活動や、ロコモティブシンドローム予防への介入などの活動を継続して行っていくと共に、スポーツ選手などの実施者に対してスポーツ障害予防の指導を行うなど、予防的介入の活動の場を広げていくことが必要だと考える。

V 結 語

健康スポーツナース、看護師、医師及び理学療法士にインタビューを行い、健康スポーツナースの課題と今後の発展性を検討した。その結果、示唆された健康スポーツナースの今後の課題と発展性は、以下のようにとまとめることができた。

- ①それぞれの活動の場で、健康スポーツナースとして自分が出来ることを積極的に行うことで、健康スポーツナースを世の中に周知させていけること。
- ②健康スポーツナースを更に世の中に広めていく具体的な広報活動を検討し、実施していく必要があること。
- ③運動器に関するより詳しい研修や、実践的な研修が研修内容に増えることで、健康スポーツナースの活動により専門的に関わりたいと考える人の活動が展開していくこと。
- ④健康スポーツナースが、健康な体づくりに必要な栄養面の知識を持ち、その知識を活かしてスポーツ選手に関わることで、スポーツ現場における活動が広がること。
- ⑤看護師のアセスメント能力を持つ健康スポーツナースが、健常者と同様に障がいを持つ人が参加するスポーツ大会の救護活動においても他職種と異なった役割を担えること。
- ⑥健康スポーツナースの活動によって、人々がより安心・安全にスポーツを行うことができる環境づくりを支援できること。
- ⑦今後は、スポーツ選手に対するスポーツ障害の予防に関しての指導を行うなど、予防的介入の場が広がっていくこと。

療法士の皆様に感謝申し上げます。また、研究を進めるにあたりご協力いただきました宮崎大学医学部看護学科の鶴田来美先生、宮崎県立看護大学看護学部看護学科の藏元恵里子先生に深く感謝申し上げます。

なお本稿は、宮崎県立看護大学卒業研究の一部を加筆・修正したものである。

文献

- 1) 文献鶴田来美. 健康運動看護師（通称：健康スポーツナース）の役割 - 健康と運動と看護をつなぐ健康スポーツナース -. 日本臨床スポーツ医学会誌 2017; 34 (3) : 304-306.
- 2) 帖佐悦男. Question 健康スポーツナースとは? 地域住民の健康を守る健康スポーツナースについて教えてください. Q&A でわかる肥満と健康 2011; 10 (5) : 724-726.
- 3) 和田健太郎, 笠裕一郎, 藤浦まなみ, 他. 宮崎大学医学部附属病院における「宮大健康スポーツナース」の取り組み. 日本臨床スポーツ医学会誌 2013; 21 (4) : 218.
- 4) 日本健康運動看護学会. 健康運動看護師（健康スポーツナース）養成講座 2019. <http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/jasfn/files/2017/10/248b31ab60097fbb52b0b-011d7914c75.pdf> (2020年3月28日アクセス可能).
- 5) 先崎陽子, 川原貴. トップアスリートのサポート. 日本臨床スポーツ医学会誌 2016; 24 (4) : 145.
- 6) 帖佐悦男. Question 健康スポーツナースとは? 地域住民の健康を守る健康スポーツナースについて教えてください. Q&A でわかる肥満と健康 2011; 10 (5) : 724-726.

謝 辞

本研究の実施にあたり、インタビューに快く応じていただきました健康スポーツナース、看護師、医師、理学